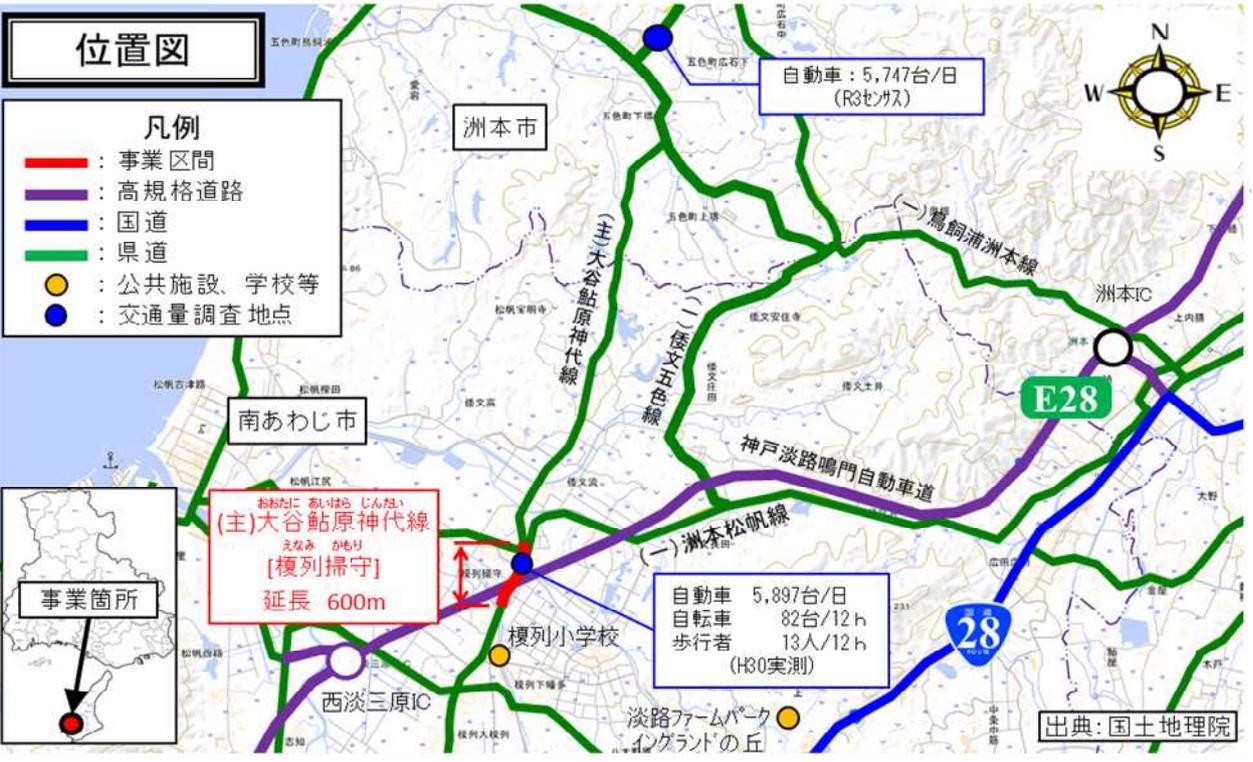
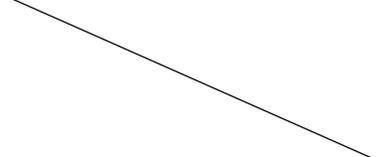


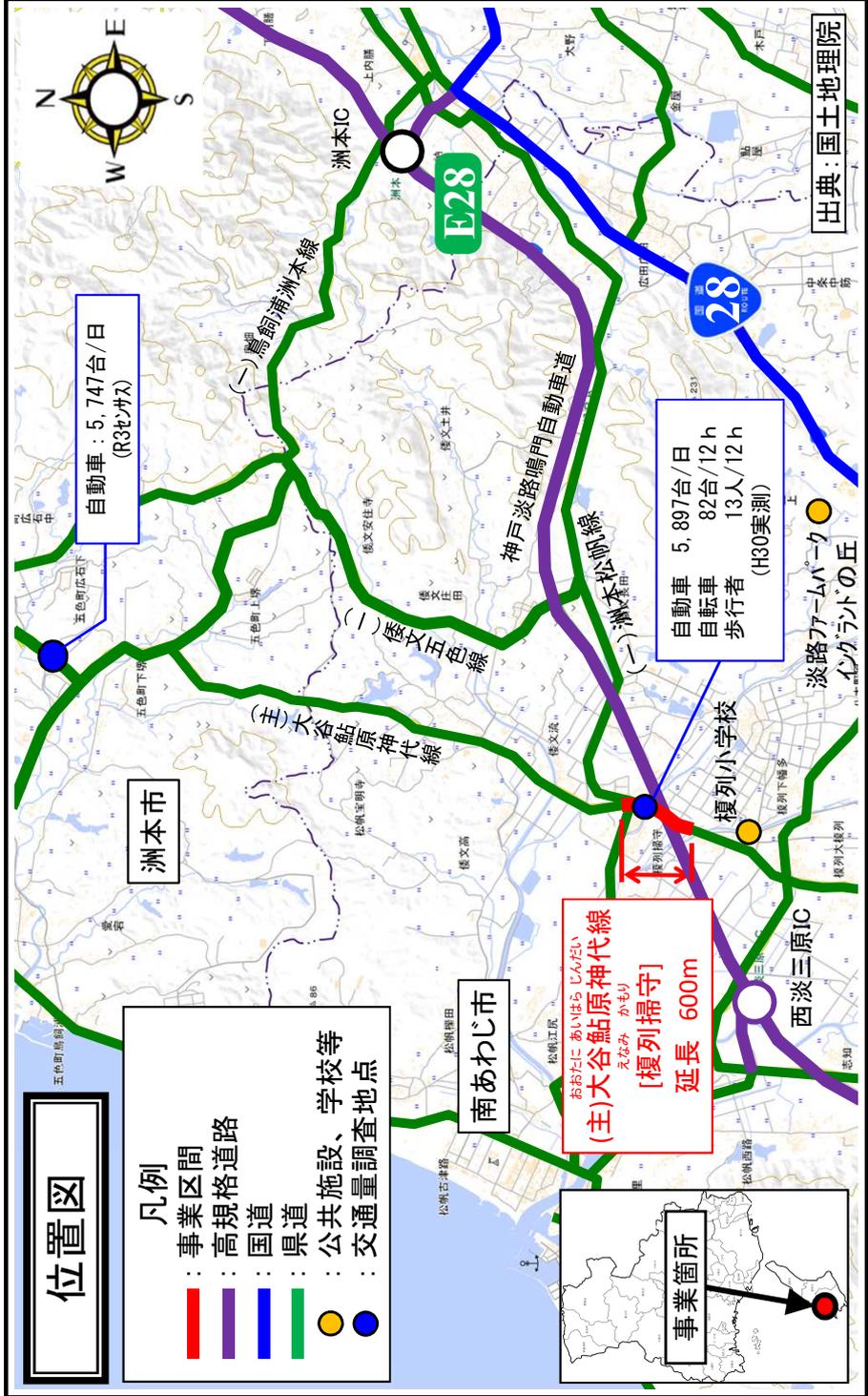
令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	土木部 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (県道班長 勝山 賢一)	内線	4362 (4376)
事業種目	道路事業	新規評価年度	平成20(2008)年度	現計画	前回評価時点
事業名	主要地方道 おおたにあいはらじんだい 大谷鮎原神代線 えなみかもり (複列掃守)	事業採択年度	平成21(2009)年度	総事業費	13億円
		着工年度	平成21(2009)年度	内地補償費	6.1億円
		再評価年度	平成30(2018)年度	完成予定年度	令和10 (2028)年度
事業区間	南あわじ市 <sup>えなみかもり</sup> 複列掃守			進捗率 (用補進捗率)	59% (97%)
				残事業費	5.3億円
事業の目的				事業内容	
<p>・本路線は、淡路島内陸部を縦断する幹線道路で、淡路地域の交流連携を促進する機能を担うとともに、生活道路として重要な役割を果たす道路である。</p> <p>○安全で円滑な交通の確保 現道は幅員狭小(5.0~6.0m)であり、大型車の離合が困難であるため、現道を拡幅し安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な歩行者空間の確保 通学児童は危険な現道(幅員狭小、歩道無し)を通行しており、歩道設置により安全な通行を確保する。</p> <p>○渋滞の解消 <sup>かもり</sup>掃守交差点では、朝の通勤時に右折車両による渋滞が発生しているため、右折レーンを新設し交通混雑の解消を図る。</p>				<p>【延長】 600m</p> <p>【構造規格】 第3種第3級</p> <p>【計画幅員】 2車線 片側歩道 2.5m 車道 6.0m [全幅 10.0m]</p> <p>【計画交通量】 5,800台/日 [R12 予測]</p> <p>【現況交通量】</p> <p>自動車： 5,897台/日 [H30 実測]</p> <p>自転車： 82台/12h [H30 実測]</p> <p>歩行者： 13人/12h [H30 実測]</p> <p>【費用負担割合】</p> <p>H21~H29： 県 100% (合併支援道路整備事業)</p> <p>H30~R10： 国 55%、県 45%</p>	
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①橋梁拡幅工法の変更により1.2億円、労務・材料費の高騰により2.0億円事業費を増額する。</p> <p>②用地買収及び物件移転に係る交渉難航、橋梁拡幅工法の見直し(道路の切り回しによる片側交互通行での施工)により、完成予定年度を令和10年度に変更する。</p>				
進捗状況	<p>①進捗率は事業費ベースで59%、用地取得率は97%</p> <p>②残用地(用地：約60m<sup>2</sup>、物件：1件)については、早期に取得すべく交渉を進める。</p> <p>③用地取得完了後、掃守橋架替工事・道路改良工事を進め、令和10年度の完成を目指す。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (H30年度再評価)	【審査会意見】 継続妥当		【対応方針】 —		
(1)必要性	<p>①現道の幅員が6.0m程度と狭小であり、大型車と乗用車のすれ違いが困難な状況であるため、現道を拡幅することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>②現道の幅員が狭小で歩道が無く危険なため、歩道を整備することにより<sup>えなみ</sup>複列小学校の通学児童の安全を確保する。</p> <p>③事業区間内の<sup>かもり</sup>掃守交差点では、朝の通勤時に右折車両による渋滞が発生しているため、右折レーンを設置し、渋滞解消を図る。</p>				
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比B/C=1.1(全体)(前回評価時点B/C=1.4)、B/C=3.8(残事業)</p> <p>②地元自治会や南あわじ市から早期整備への強い要望がある。</p>				
(3)環境適合性	歩道舗装に雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。				
(4)優先性	事業区間中央に残る <sup>かもり</sup> 掃守橋工区120mがボトルネックとなっていることから、早期に事業を完了させる必要がある。				
再評価 の結果	継続	左の理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、南あわじ市の「通学路交通安全プログラム」に本事業が位置付けられており、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）

事業名	道路事業	路線・河川名	(主) 大谷鮎原神代線 (複列掃守)
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="183 224 446 302" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>位置図</b></p> </div> <div data-bbox="183 313 518 548" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: red;">—</span> : 事業区間</li> <li><span style="color: purple;">—</span> : 高規格道路</li> <li><span style="color: blue;">—</span> : 国道</li> <li><span style="color: green;">—</span> : 県道</li> <li><span style="color: yellow;">●</span> : 公共施設、学校等</li> <li><span style="color: blue;">●</span> : 交通量調査地点</li> </ul> </div> </div>  <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>事業箇所</b></p> <p>おおたに あいはら じんだい  <b>(主)大谷鮎原神代線</b>  <b>[複列掃守]</b>  <b>延長 600m</b></p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>自動車: 5,747台/日 (R3セガス)</p> <p>自動車 5,897台/日          自転車 82台/12h          歩行者 13人/12h (H30実測)</p> </div> <p style="text-align: right;">出典: 国土地理院</p>			
<b>事業進捗状況・予定</b>		<b>整備効果</b>	
<p>全体 H21 (2009) ~ R10 (2028)</p>	<p><b>【事業費=13億円】</b>                  延長 600m                  用地取得面積: 約 2,600m<sup>2</sup></p>		
<p>前回再評価 まで (実績)</p>	<p><b>【事業費=6.3億円】</b>                  事業進捗率64%                  用地補償進捗率84%</p>		<p>交差点部を含む事業区間北側工区の完成 (L=210m) により、信号渋滞の解消、歩行者・自転車の安全を確保。</p>
<p>過去 5年間 R1 (2019) ~ R5 (2023)</p>	<p><b>【事業費=1.4億円】</b>                  事業進捗率59%                  用地補償進捗率 97%</p>		<p>橋梁区間より南側工区の完成 (L=270m) により円滑な交通を確保。</p>
<p>今後5年間 (予定) R6 (2024) ~ R10 (2028)</p>	<p><b>【事業費=5.3億円】</b>                  令和6年度~令和10年度 掃守橋橋梁架替工事                  令和10年度 橋梁取り合い区間の道路改良工事                  令和10年度 全線供用予定</p>		<p>残る橋梁区間を整備し、全事業区間において、安全で円滑な交通を確保。</p>

おおたに あいほら じんたい えなみ かもり  
**道路事業 (主)大谷鮎原神代線(榎列掃守) (継続:再評価[第2回])**

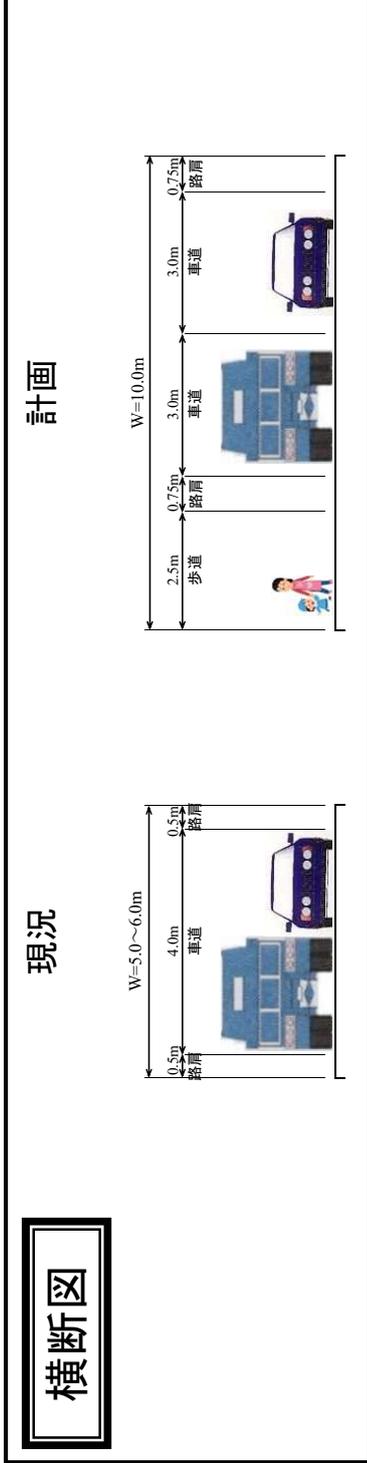


**目的**

- ①安全で円滑な交通の確保
- ②安全な歩行者通行の確保

**事業概要**

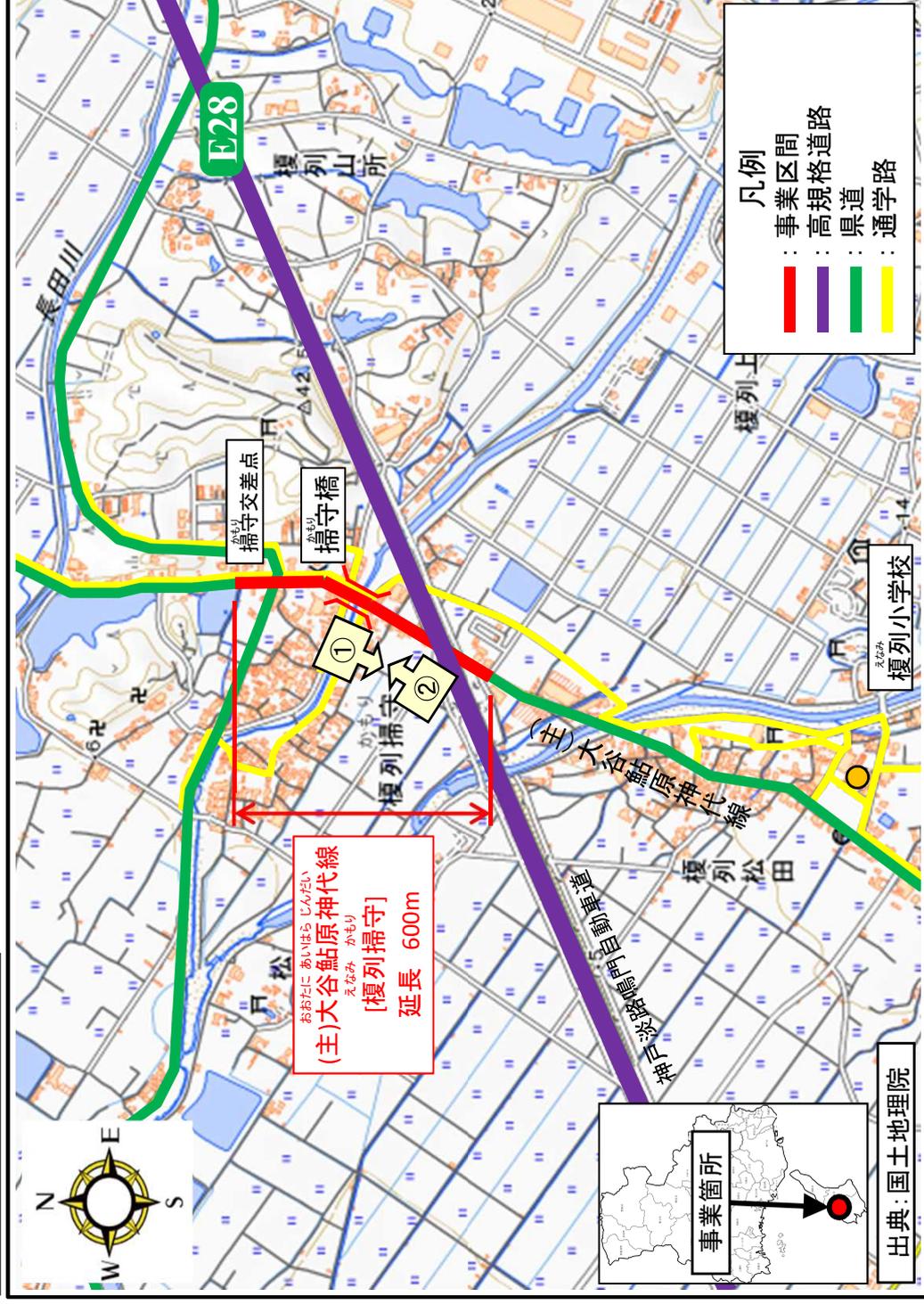
事業区間: 南あわじ市榎列掃守  
 事業費: 13億円  
 内用地補償費: 6.1億円  
 事業期間: H21~R10  
 概要: 現道拡幅  
 延長: 600m  
 員数: 6.0m(10.0m)  
 計画交通量: 5,800台/日(R12推計)  
 費用便益比 B/C: 1.1



## 事業の必要性・優先性

- ① 現道の幅員が6.0m程度と狭小であり、大型車と乗用車のすれ違いが困難な状況であるため、現道を拡幅することにより、円滑な交通を確保する。
- ② 榎列小学校の通学児童は危険な現道（幅員狭小、歩道無し）を通行しており、歩道設置により安全な通行を確保する。
- ③ 残用地は残り1件のみであり、早期に取得すべく交渉を進めている。

## 平面図



## 整備前状況

- ① 大型車と乗用車のすれ違いが困難

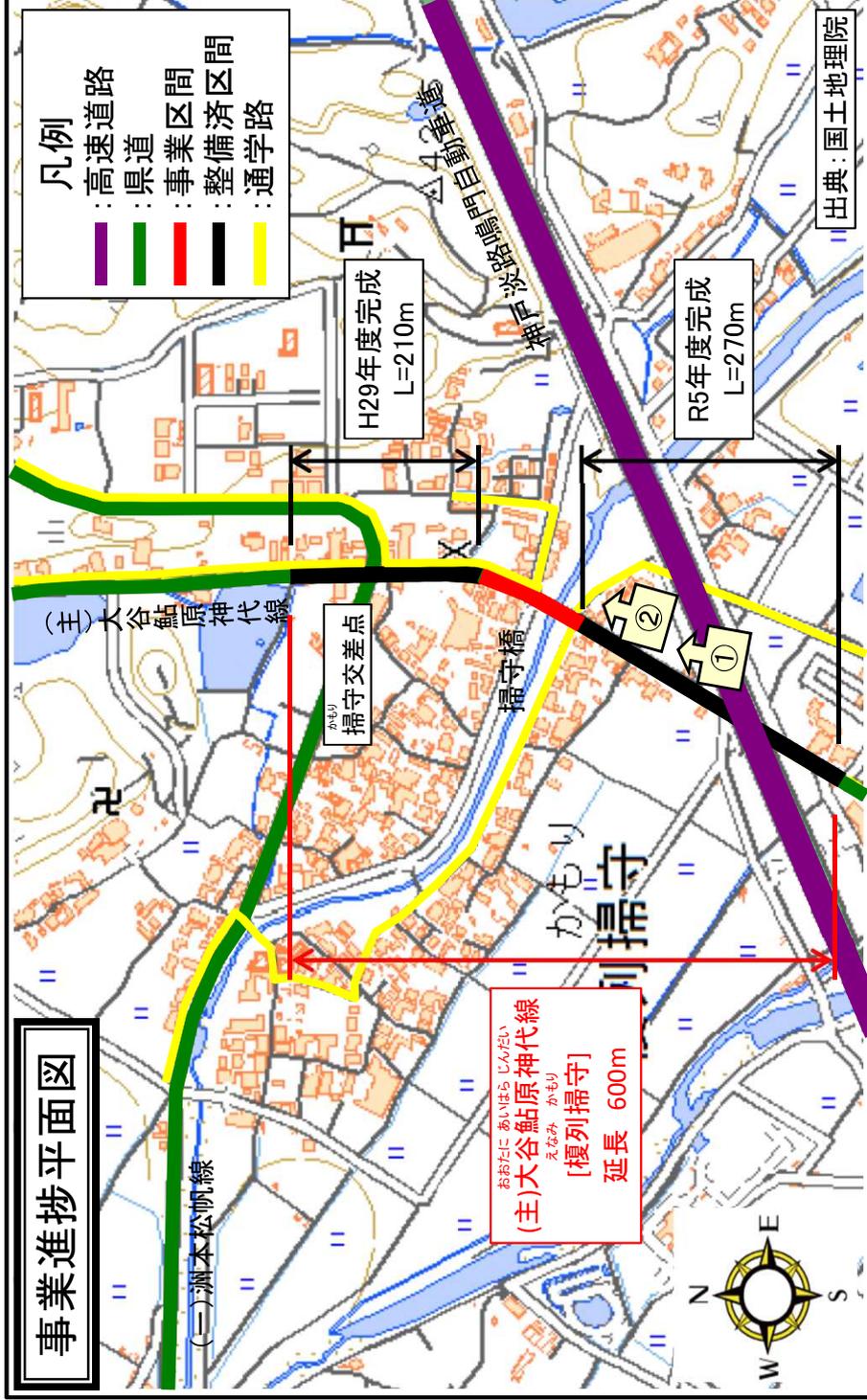


- ② 現道が幅員狭小、歩道なしで危険



# 進捗状況

## 事業進捗平面図



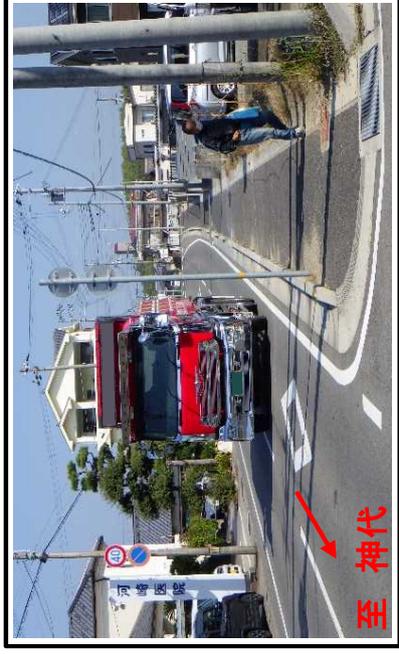
## 工程表

■ : 前回計画  
 ■ : 実施・計画

工程表	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
調査・設計	■	■																		
用地補償		■																		
道路改良工事		■																		
橋梁工事																				

# 整備状況

## ① 現道拡幅により円滑な交通を確保



## ② 歩道設置により通学児童の安全を確保

